



えん 園だより がつごう 12月号

Y M C A 保育園ねがい
2024年12月1日発行



「さあ、ベツレヘムへ行こう。」
ルカによる福音書 2章 15節

夕方の太陽が沈んだ後の空の青さが冬の寒さと共に澄んで見えます。そこに光る星を見つけるとわくわくします。今年もクリスマスが近づいてきました。

保育園では毎年、クリスマスの物語（私たちを救うために生まれた、救い主の誕生のお話）を聞きます。

幼児のクラスになるとみんなで生誕の劇（ペーボジエント）を演じます。

「毎年、ストーリーは同じですよね！」と不満げに保護者から言われたことがあります。

でも、保育園では同じメンバーで演じることは二度とありません。そして、演じる一人ひとりの物語は毎年違います。だから、毎年同じ劇を見ていても、心に響く事は毎年違います。

保育園での生活は長い人生の根っこ部分になる、基礎を育てる時だと思います。そして、「ことば」を獲得する時期です。子ども達は成長に従って、表現の方法も毎日発達します。言葉になる前は行動や表情に感情がそのまま表れます。しかし、「ことば」で表現することは、感覚・感情をコントロールできる「ツールを手に入れる」ことにもなるのだと思います。そして、大きくなるにしたがって、時には「ことば」には偽りや、演技の技法が加わることもあります。

人類が絶滅せずに生き延びた一つの要因に、コミュニケーションによって他者と協力できるようになった事があると言われています。

「だれかに聞いてほしい」「褒めてほしい」「愛してほしい」という思いがお互いに理解し合い、愛し合う事の根っこかもしれません。

「さあ、ベツレヘムへ行こう。」と、クリスマスの物語で、天使のしらせを聞いた羊飼いたちは誘い合ってでかけました。いつもにいっしょに過ごす仲間がいて、心を合わせる事はなんと嬉しい事でしょう。

西暦2024年目に語り継がれる今年のクリスマスが一人ひとりの心に平和が届く、安らかな時となる事を心から願います。今年、子ども達と過ごす物語が来年の希望になる事を信じます。

